

Vol.11

2014 November

みんなの未来を守る健康診断

けんこうリンク

公益財団法人 茨城県総合健診協会 機関紙



Vol.11 CONTENTS

特 集

第59回 予防医学事業推進全国大会を 開催しました

Topics

- ・ 乳がん検診研究委員会（X線・超音波）を開催しました
- ・ 消化器がん検診の成果を学会にて発表しました
- ・ 結核予防週間街頭キャンペーンを行いました
- ・ 第22回がんフォーラムを開催しました

各部門めぐり ～第6弾 精度管理課～



けんこうリンク

公益財団法人 茨城県総合健診協会

予防医学事業推進全国大会

長寿社会の未来を拓く ～21世紀の健康づくり～

1,600名超の来場者を迎え、盛会に開催

10月17日(金)、茨城県立県民文化センター大ホールにおいて、「第59回予防医学事業推進全国大会」を開催致しました。当日は穏やかな秋晴れのもと、県内外から1,600名超の方々が来場し、午前は厚生労働副大臣、文部科学大臣、日本医師会長、茨城県知事、水戸市長を来賓とする全国大会記念式典、午後は県民公開講座を行いました。

そこで今号では、大会の様子をご紹介します。



水戸の梅大使が来場者の皆様をお迎えしました

こうしたことからは「健康」は、国民の幸せづくりに欠かせないものであることはもちろんのこと、財政健全化並びに経済発展の観点からも非常に重要視されています。

そこで、健康を守るためには、健康を増進し発病を予防する「次予防」と、健診によって病気の早期発見・早期治療につなげる「二次予防」を対

今大会は、当協会の前身である茨城県予防医学協会が昭和53年に開催して以来、本県では2回目の開催となります。当時と比べ、現在の健康づくりに関する環境は、国をはじめとする行政の支援もあり格段に向上いたしました。その一方で、超高齢社会の到来や疾病構造の変化、生活形態の意識の変化などにより健康問題は複雑化し、社会保障問題も絡みあって、新たな課題としてクローズアップされています。



大会会長挨拶

公益財団法人 茨城県総合健診協会

会長 金子道夫

策の柱に、乳幼児から高齢者に至るまで、それぞれの世代において必要な予防及び健康管理を講じることが最も重要であることはいうまでもありません。

今大会のテーマは、「長寿社会の未来を拓く～21世紀の健康づくり～」といたしました。このテーマには、国民一人ひとりが「自らの健康は、自らがつくる」という自覚と認識を持つことが重要であるとの考えに立ち、健康であることを共に考え、健康管理に関する視野を広げていただきたいの思いが込められております。本日、お集まりの皆様には、国民の健康づくり運動の輪を全国により広めるため、なお一層のご協力を賜りますよう、心よりお願い申し上げます。



第59回 予防医学事業推進全国大会プログラム

午前の部 <全国大会記念式典>

開 会	
大会会長挨拶	(公財)茨城県総合健診協会
大 会 式 辞	(公財)予防医学事業中央会
歓迎のことば	茨城県知事／水戸市長
表 彰	感謝状、小宮記念賞
来 賓 祝 辞	厚生労働副大臣／文部科学大臣／日本医師会長
大 会 宣 言	(公財)茨城県総合健診協会
次期開催県挨拶	(公財)鳥取県保健事業団

記 念 講 演

「健康長寿社会を支える最先端サイバニクス」
筑波大学大学院システム情報工学研究科教授
筑波大学サイバニクス研究センター センター長
CYBERDYNE株式会社 代表取締役社長／CEO
山海 嘉之 先生

午後の部 <県民公開講座>

アトラクション	相撲甚句「健康づくり 茨城場所」 大至 伸行 氏(元大相撲幕内力士)
文 化 講 演	「水戸藩の医学と医療」 茨城大学名誉教授 鈴木 暎一 先生
特 別 講 演	「超高齢社会は「予防」がキーワード」 (公財)茨城県総合健診協会副会長 大田 仁史 先生

第59回



大会宣言

公益財団法人 茨城県総合健診協会

専務理事 根本 年明

今日の日本は、世界に冠たる長寿社会となりました。しかし、高齢化の進展とともに、疾病罹患率及び要介護率の増加により、医療や介護を必要とする人々が増え、平均寿命と健康寿命との差を短縮することが喫緊の国民的課題となっております。

このような中、我が国は「日本再興戦略」において、「国民の健康寿命の延伸」を重点テーマの一つに掲げ、効果的な予防サービスや健康管理の充実により、健やかに生活し、老いることができる社会、世界最先端の医療が受けられる社会、良質な医療や介護へのアクセスにより、早期復帰のできる社会の実現を目指しております。

これらを実現するため、我々には国をはじめとする行政の施策に協力することはもとより、各分野との連携によって、これまで以上に効果のある予防医学事業を展開することが強く求められているところです。

我々の予防医学事業の原点は、戦後の混乱期にいち早く始まった寄生虫撲滅のための「草の根運動」にさかのぼりますが、その活動の成果は大いに証明されています。現在直面している課題克服に向け、今一度原点に立ち返り、次の活動を推進していくことを、本日、この大会において新たに決意します。

- 1 学校や地域における健康教育の実践など、国民の理解と共感を得るための活動を堅持していきます。
- 2 あらゆる機会を通じ、各種健診・検査や健康に関するデータを公開及び提供するとともに、分析結果に基づいた提言をしていきます。
- 3 行政や関係団体と連携し、全国組織としての責任と自覚をもち、組織をあげて予防医学事業を積極果敢に展開していきます。
- 4 世界に誇れる「健康長寿社会」を目指し、予防医学サービスの質の向上に努力を重ねていきます。

以上、この茨城の地から宣言します。

2014年10月17日
第59回予防医学事業推進全国大会
(茨城県大会)

予防医学事業中央会賞

(小宮記念賞)

長年、予防医学運動の推進に寄与、功績のあつた方々に感謝状等贈呈の表彰式が行われ、当協会からも大串昌文事務局長次長が栄えある予防医学事業中央会賞(小宮記念賞)を受賞しました(写真)。

大串事務局長次長は、昭和54年に入職して以来、永年にわたり健診業務の推進と県民の健康保持、増進に寄与すべく予防医学への思想普及をはじめとした渉外活動を展開し、受

診率の向上に貢献するとともに、予防医学事業中央会では業務研修委員として全国業務研修会を主導するなどの活躍が認められて今回の受賞となりました。

また、当協会の船橋紀子健診第二課係長及び飯村由美子検査一課係長の両名が日常業務における活躍が認められ、予防医学事業中央会奨励賞を受賞しました。



記念講演

健康長寿社会を

支える最先端

サイバニクス

筑波大学大学院システム情報工学研究科教授
筑波大学サイバニクス研究センター センター長
CYBERDYNE株式会社
代表取締役社長／CEO

山海 嘉之 先生

世界初のサイボーグ型ロボット「ロ
ボットスーツHAL」は、人・機械・情報
系を融合複合させた新学術領域サイバ
ニクスを駆使することで生まれました。
講演では、「ロボットスーツHAL」の
実演や、サイバニクス技術によって築き
上げる健康長寿社会の未来開拓につい
てお話しいただきました。

特別講演

超高齢社会は

『予防』が

キーワード

公益財団法人茨城県総合健康協会副会長
茨城県立健康プラザ管理者

大田 仁史 先生

講演に先立ち、大田仁史先生と県内
在住で100歳を超えた元気な高齢者
(男性)との対談を行い、元気の秘訣な
どを伺いました。

対談者は、90歳を超えてから幾度も大
きな病気を乗り越え、今でも大変元気
でいらつしやいます。元気の秘訣は、毎朝
30分かけて手足の関節を動かすことと

文化講演

水戸藩の医学と医療

茨城大学名誉教授 文学博士 鈴木 暎一 先生

『徳川光圀の時代』

光圀の時代に水戸藩の医学と医療は
大いに進展したわけですが、これは光
圀自身の高い関心と奨励によるところ
です。

光圀は「奇方西山集」という書物を自
ら編集しました。この書物は多数の病
名を挙げ服用すべき秘伝の処方を集め
たもので殿様自らが編集したことは他
の藩でなかったことと思います。

63歳で藩主を引退して西山荘に移り
住んだ光圀は、侍医(藩医)の「鈴木宋
与」に「救民妙薬」という書物(397も
の薬の処方を書いたもの)を編さんさ
せます。後に全国に普及し、江戸時代の
一般民衆も含めて大変重宝されました。

『徳川斉昭の時代』

1829年に斉昭が藩主になりました。
弘道館をつくられた有名な殿様です。
斉昭は光圀と並び、医学と医療に情熱
を傾け、「景山奇方集」「漢方処方集」全55
巻」を約30年かけて作りしました。1841
年に弘道館が完成し、その2年後には
医学館が完成します。斉昭は当初から、
医学館を組み込む形で弘道館の配置を
考えていたことが平面図からわかりま
す。また、医学館は、種痘(天然痘の予防
接種)をやったことで有名です。水戸地
方は弘道館ができて数年後、天然痘が
大流行して多数の死者がでました。そ
こで医学館では毎月1日と15日に種痘
日を設け、希望者に実施しました。水戸

藩資料別記によると、斉昭自身がまず
自分の子供達に種痘をやらせて、大丈
夫であることを侍や民衆に分からせま
した当時、天然痘の予防に牛痘ウイルス
を使用していたが、恐怖心から接種
がなかなか進まなかった。その子供の
中に後の徳川慶喜がいたそうです。慶
喜自身も軽い天然痘にかかり、現在の
偕楽園に隔離されたそうです。

水戸藩は、人間にとって一つしか
ない命を守るために医学・医療の発展に
命を捧げた人々がいて、大きな貢献を
果たしたということの一端が、今日の
話してお分かりいただけたと思いま
す。

趣味のゲートボールだそうです。檀上
ではつくりとした口調とユーモアた
ぷりの
お話し
に会場
から大
きな拍
手が送
られま
した。



『予防を包括的・段階的に 整理し行動する』

昭和22〜24年生まれの団塊世代は、時
代ごとに大きな課題を抱えており、波に
例えると3波あります。2015年は年
金問題、2025年は医療・介護問題、
2035年は多死・孤立死問題です。茨
城県の調査によると、このうち医療の津
波は既に到来していることが判明しま

『シルバーリハビリ体操の 効果と今後の展望』

この運動を推進する「シルバーリハピ
リ体操指導士」は1級から3級までの
組織構成となっており、養成にあつて

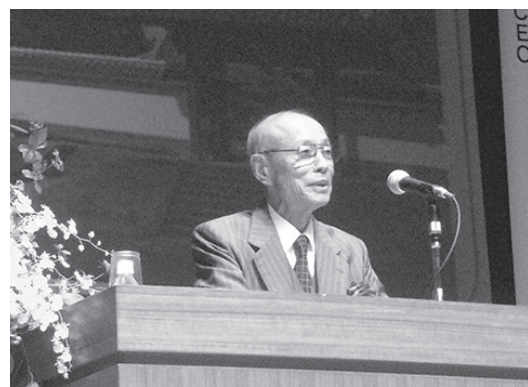
した。特定健診を受けた方を追跡調査し
たところ、一人あたりの年間医療費は、60
〜64歳では15万円程度ですが、65歳を超
えると2倍以上に増えていきます。団塊
世代は今年で全員65歳以上となり、今後、
医療費が莫大に増えていきますが、国
で医療費の全てを賄う体力があるとは思
えません。対策としては「予防」しな
いとと考えています。防ぎ止めること
をできるだけやるということが基本と
なっていきます。そして『予防』という
言葉を包括的に「誰しもが考え、段階
的に整理する」という思考方法で行動
に移していかなければなりません。



要介護1)の割合が減少しているとい
う効果が明らかとなりました。今後は、
「指導士と活動の場を増やし、高齢者に
近づく活動の展開」と「リハビリ専門職
等との協働による要介護者へのアプ
ローチの工夫」を推奨していきたいと思
います。



講演後には会場全体で
シルバーリハビリ体操をしました



相撲甚句

元大相撲幕内力士

大至 伸行氏

健康づくり

茨城場所

ヘアーチー

意欲と自覚の 草の根きずな ヨー

アー 戦後日本の混乱を
努力と信念 実績で

見事乗り越え 確立は

予防医学の 土俵入り

健康は 自身のみならず

社会の大事な財産よ

国民理解と共感で

健康寿命の延伸は

幸せ社会への パスポート

さらなる意識の高まりと

医への信頼 期待受け

事業に邁進 中央会

健診 研究 教育を

柱に 健康づくりの輪

時代に合わせて 開かれる

国民参加のイベントも

数えて50と9回目

水戸御老公御前の

茨城場所に とうご期待

21世紀の世の中の

健康づくりを 大テーマ

長寿社会の ヨーホホイ

露払い ヨー

相撲甚句(すもうじんぐ)とは邦楽の一種で、大相撲の巡業などで披露される七五調の囃子(はやし)歌です。今回の全国大会を記念する相撲甚句を特別に披露していただきました。また、相撲甚句の合間には軽快なトークが繰り広げられ、会場が大いに盛り上がりました。



大会を終えて

当日は、多くの皆様の来場により盛会裏に大会を終了することができました。

当協会は、今後も健康支援機関としての責務を果たすべく、予防医学事業の更なる推進を図ってまいります。

Topics

乳がん検診研究委員会
(X線・超音波)を開催しました

去る8月7日(木)に平成26年度第1回乳がん検診研究委員会(乳房X線検査)を、また8月20日(水)には平成26年度第1回乳がん検診研究委員会(乳房超音波検査)を当協会会議室において開催しました。今回は、筑波メディカルセンター病院の専門医や技術職員も参加し、当協会職員を含めるとそれぞれ約50名の出席のもと、検診実績等の報告や症例検討を行いました。

平成25年度の実績は、県内37市町村で58,290人が乳がん検診(視触診・乳房X線・乳房超音波検査)を受診しており、そのうち35,794人が乳房X線検査を受診し前年度に比べて約3%の伸びとなったこと等を報告しました。

また、要精密検査者の医療機関受診状況は、前回の研究会時(H26年2・3月開催)に精密検査を未受診であった者(乳房X線…13人、乳房超音波…7人)のうち、一部は受診したものの(乳房X線…8人、乳房超音波…4人)、今なお未受診の



者について引き続き市町村を通じて受診勧奨を行うことを報告しました。

このほか、症例検討では、乳房超音波検査において、精密検査の結果から「微小ながん」が複数発見されており、代表世話人の植野映委員から「健診協会職員の技術水準の高さが発見に繋がった」とのコメントをいただきました。

消化器がん検診の成果を
学会にて発表しました

一般社団法人日本消化器がん検診学会関東甲信越支部主催の「第74回日本消化器がん検診学会関東甲信越支部地方会」が去る8月31日(日)に茨城県メディカルセンターほか2会場で開催されました。本大会は、「消化器がん検診における地域開業医の役割」をテーマに、関東甲信越から有識者が集い日頃の研究成果を発表し、意見交換も積極的に行われました。当協会では2題発表しました。

で、その概要について報告させていただきます。
なお、紙面の関係上、原文の二部を割愛させていただきます。

発表1

当施設における腹部超音波
検診の要精密検率と精検受診率

〈対象及び方法〉

平成15年4月1日から25年3月31日までの10年間に、腹部超音波検診を受診した延べ170,108人を対象に、①精密検査が必要と判定された割合(以下「要精密検率」という。)、②精密検査を受診した割合(以下「精検受診率」という。)、③受診回数別の結果について検討しました。

〈検討結果〉

●要精密検査と判定された者(以下「要精密検者」という。)は13,143人で要精密検率は7.7%であった。平成17年度の8.8%をピークに、その後は減少傾向にあり平成24年度は6.2%であった。

●要精密検者13,143人のうち、精密検査を受診したのは9,596人で、精検受診率は73.0%であった。依然として約3割の要精密検者が未受診であった。

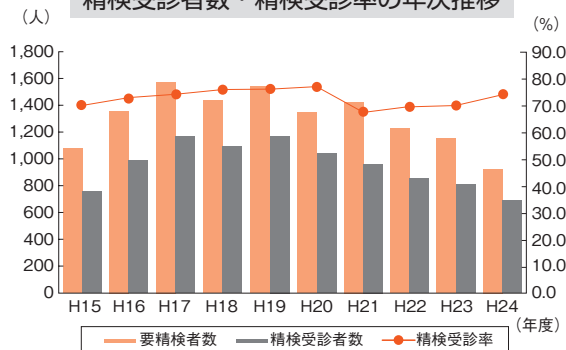
●初回受診者の割合は年々減少傾向にあり、平成24年度は31.1%であった。

●平成24年度は、初回受診者の要精密検率は8.8%であり、前年度も受診した者は4.1%と大きな差が認められた。また、受診する間隔が3年以上の場合には8.1%で、受診する間隔が長くなると要精密検率が高くなる傾向にあった。

●がんが発見された受診者のうち、初回受診者が74.3%を占めた。

以上から、「精密検査を受けていない約3割には重篤な疾患の放置が危惧されること」さらには「検診の受診間隔が長くなると要精検率が高くなることから、早期発見のために年1回受診することが必要であること」を強く訴えました。

精検受診者数・精検受診率の年次推移



発表2

当施設における胃X線検診安全基準導入について

当協会では、胃がん検診における危険性を回避して安全に受けていただくことを目的に、受診時の絶対禁忌、相対禁忌事項を記載したリーフレットを作成し、受診者に事前配布してきました。平成26年度からは「受診できるかできないか」をわかりやすく明示するため、日本消化器がん検診学会関東甲信越地方会発刊「胃X線検診安全基準」に準じた内容にリーフレットを更新しました。

〈主な変更点〉

- 安全に検診を受けていただくための基準項目を追加しました。
- 脳血管障害などで嚥下障害がある。
- 検診当日の血圧が収縮期血圧180mmHg以上または拡張期血圧110mmHg以上と著しく高い。

〈新リーフレットの運用にあたって〉

- 胃がん検診に関わる渉外担当職員や検診時の問診を担当する看護師、胃がん検診を補助する職員等へ「胃X線検診安全基準」の研修を行いました。
- 実施主体である市町村や事業所の担当者には、渉外担当職員が事前説明を行いました。

〈検診会場での対応〉

リーフレットに明記した基準に該当する方には、「胃X線検診安全基準」を提示してわかりやすく説明し、かかりつけ医療機関などでの検査を推奨しています。

今後も胃X線検診の安全基準を遵守し、よりいっそう安全で精度の高い胃がん検診を推進します。



結核予防週間街頭キャンペーンを行いました

今年度の結核予防週間（9月24～30日）に合せて、茨城県及び茨城県地域女性団体連絡会とともに、県内3カ所で「結核予防週間街頭キャンペーン」を実施しました。

9月10日（水）は、つくば市のTX研究学園駅にて朝の通勤・通学の方々を主な対象に、また9月25日（木）は鹿嶋市のショッピングセンターチエリオ、9月28日（日）は水戸市のイオンモール水戸内原にてショッピング等に訪れた方々を対象

に結核予防の呼び掛けとパンフレット「結核の常識2014」等を配布しました。

ショッピングに訪れた方から「結核って今でもあるの（発症しているの？）と質問を受け、結核の現状を説明すると「びっくり昔の病気だと思っていた」と述べ、現在も身近な病気であることを改めて認識されました。

厚生労働省の統計によると、茨城県内では毎年約400人の方が

第22回がんフォーラムを開催しました

「茨城よろこびの会（がん患者の会）」が定期的に開催しています。

今回は、「前立腺がんのロボット支援手術と今後の展望」と題して株式会社日立製作所日立総合病院副院長兼泌尿器科主任医長の堤雅一先生にご講演いただきました。

日立総合病院は、平成23年9月に北関東で初めて最先端の内視鏡手術支援ロボット「ダヴィンチ」を導入しており、アーム操作研修時の苦労話やダヴィンチによる前立腺がん手術の概略、これまでの実績のほか、術後の身体的負担の軽減など、ユーモアを交えながら熱心に説明されました。参加者からは様々な質問が寄せられ関心の高さが伺えました。

また、講演後には、アトラクション「ハーモニカ演奏」が行われました。さらに、同時開催として、医療法人



新たに結核にかかり、40人以上の方が命を落としている重大な感染症です。

早期発見のため一人でも多くの方に結核健診を受けていただきたいと思ひます。

社団いばらき会理事長の照沼 秀也先生による「無料がん相談」が今回も行われ、希望者の個別相談に対して丁寧なアドバイスをされました。参加者からは、「専門医の説明に納得しました」「茨城よろこびの会の存在を知り、良かった」「地域のため、これからも続けてください」等、たくさんのご意見・ご感想が寄せられ、茨城よろこびの会にとっても大変意義深いイベントとなりました。

茨城よろこびの会では、新規会員を常時募集しています。がんフォーラムのほか、各種会合など定期的に集まり親睦を深めていますので、ご興味のある方は、お気軽に事務局までご連絡ください。

〔経営企画室〕

☎029(241)0011(代)

公益財団法人
茨城県総合
けんこうリンク

各部門 めぐり

各課紹介 第6弾

精度管理課

組織及び人員

私たち精度管理課は、がん検診等における「最終判定」に深く関わり、検診の精度を維持向上するための様々な業務を8名のスタッフで行っています。

業務内容

- ① 胸部、胃部、乳房、腹部のがん検診で撮影された画像の結果処理や特定健診などで行われている眼底、心電図検査の結果処理
- ② がん検診における要精密検査者の追跡調査
- ③ 各種がん検診などに関する統計業務解析等
- ④ 各種検診研究委員会の運営

判定業務

画像等の結果処理においては、当課員以外にも、専門医師はもちろんのこと、診療放射線技師や超音波検査技師、臨床検査技師が協力して業務に当たっています。私たちは、皆様のお手元に少しでも早く結果をお知らせするため、毎日長時間との闘

いです。

最終判定は、専門医師が画像等を見て「異常なし」「要精密検査」等を決定しています。要精密検査と判定された受診者には、医療機関で精密検査を必ず受けていただくようお願いしています。当協会の実績によると、がん検診における対象者のうちおよそ3割の方が精密検査を受けていない状況にあります。そこで、本年度からは、精密検査の受診率が特に低い職域のがん検診を対象に「精密検査受診勧奨リーフレット」を新たに作成し、要精密検査者に対して結果通知書等とともにお送りし、精密検査の解説や予約方法等の詳細な情報提供に努めています。

また、時代の変化とともに検診もデジタル化が進んでいます。例えば、がん検診のX線撮影は、これまでのフィルムを用いたアナログ撮影からデジタル撮影に変わり、それに伴い検診後はフィルムの現像が無くなり、画像データを登録し専用ソフトを用いてPCモニターに映し出して異常の有無を判定しています（写真）。

モニターによる判定の特長は、「瞬時に過去の画像を呼び出すことで円滑な比較読影を行えること」、「画像の拡大、反転等の処理が行え

ること」のほか、「過去の検診受診履歴」、「精密検査結果」、「手術歴や既往歴」、「技師所見」等の必要な情報が全て表示されることです。また、独自のレポートシステムの導入により、介助者が判定結果を同時に入力しており、デジタル化により判定業務の効率化を図ることができました。

なお、当協会の判定は、豊富な経験と実績を持ち合わせた県内外の専門医指導医等によって組織された当協会各種検診研究委員会の委員が担当しています（詳細は後述）。

そのほか、精密検査医療機関の主治医の求めに応じ、診断に役立つよう画像等の貸出業務も行っています。



胃部X線デジタル画像の読影

がん検診追跡調査等事業

検診の精度向上及びその評価を行うために、茨城県の事業である「がん検診追跡調査等事業」を受託しています。この事業は、市町村が実施したがん検診の要精密検査者を登録管理するとともに、各精密検査医療機関から収集した精検結果や治療情報と突合することで、精密検査未受診者への受診勧奨や検診精度の評価に役立てられています。また、これらのデータは、県が設置する生活習慣病検診等管理指導協議会各がん部会や当協会各種研究委員会での検討資料として活用され、行政運営等様々な場面で活かされています。

各種検診研究委員会の運営

当協会には、12の各種検診研究委員会が設置されており、これらのうち9つの研究委員会の事務局を担当しているのが当課になります。

研究委員会は、それぞれの専門医

表 各種検診研究委員会一覧

肺がん検診研究委員会	細胞検査診断委員会 (肺がん)
消化器検診研究委員会	乳がん検診研究委員会 (乳房X線検査)
乳がん検診研究委員会 (乳房超音波検査)	細胞検査診断委員会 (子宮がん)
心電図検査研究委員会	腹部超音波検診 研究委員会
前立腺がん検診 研究委員会	肝臓病検診研究委員会
先天性代謝異常症等 研究委員会	眼底検査研究委員会

メッセージ

師で構成され、検診の評価やより良い検査方法について意見交換等が行われます。その際の情報提供を行うのは当課の役割であり、先述の「がん検診追跡調査等事業」で収集したデータなど、膨大な検診情報を基に統計解析を行っています。

また、研究委員会では症例検討会を開催し、その症例が的確に描出されているか、改善する余地はあるかなどの検討を行っています。

そのほか、毎年、全国の学会等へ参加し、新たな検査手法や評価方法等の知見を深めるとともに、得られた情報を課内で常に共有しています。

これから業務の性質上、受診者の皆様と直接お会いする機会はありませんが、皆様にご協力いただき、満足していただける検診を提供できるよう、課員一同、今後日々努力を重ねてまいります。



けんこうリンク

公益財団法人 茨城県総合健診協会

〒310-8501 水戸市笠原町489-5

TEL 029-241-0011(代) FAX 029-241-0332

【全国組織】

(公財)結核予防会茨城県支部

(公財)日本対がん協会茨城県支部

(公財)予防医学事業中央会茨城県支部

【施設認定】

労働衛生サービス機能評価機構認定施設

国際品質保証規格ISO9001:2008認証取得

プライバシーマーク認証取得



□県西センター 〒308-0125 筑西市関本分中37-1
□県南センター 〒300-0025 土浦市手野町1-1
□茨城県立健康プラザ 〒310-0852 水戸市笠原町993-2

TEL 0296-20-3480 FAX 0296-20-3482
TEL 029-830-3355 FAX 029-828-0985
TEL 029-243-4171 FAX 029-243-9785

編集後記

寒暖の差が厳しくなり、体調管理が特に難しい季節となってきました。休日に買い物に行くと、防寒用品の陳列が目につき、「冬支度を始めなければいけないな～」と気ぜわしくなります。

気象庁が発表した予報によると、「今冬の東日本は平年並みか暖かい見込み」とのことですが、そうは言っても十分に寒い日々を過ごすことになると思います…。

そんな時には、温かいものが食べたくなりますよね。ある

グルメサイトによると、今年は、あのヒット映画「アナと雪の女王」にあやかっ、て、「白」と「雪」を連想させる食材・スープを使用した、見た目にも冬を感じて楽しめる白い鍋＝「雪見鍋」に注目が集まっているそうです。例えば大根おろし・とろろなど白いものをたっぷり使用した鍋や、濃厚なとんこつスープで白濁した鍋が冬を感じさせるということです。大根やとろろは栄養価が高く健康にもよいため、みなさんぜひお試しください!(S・M)

個人情報保護に関するお知らせ

当協会では、機関紙「けんこうリンク」の発行に関わるみなさまの個人情報を、同紙の送付以外には使用いたしません。次回以降、送付をご希望されない場合は、経営企画室までご連絡くださいますよう、お願いいたします。

「けんこうリンク」の各種情報は、

<http://www.ibasouken.org/>